

地 図

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	地図 002-72	A 4 176	令和 6 年
46	帝国書院	帝 国◆	地図 046-72	A 4 198	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者

冊 数	発 行 者 の 略 称
2 冊	東書、帝国

2 学習指導要領における教科・分野の目標等

【社会科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

【地理的分野の目標】

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

【参考：中学校学習指導要領解説 社会編 第2章「社会科の目標及び内容」 第2節 1 (1) 目標より抜粋】

また、情報を読み取る技能に関わって、地理的分野の学習で用いられる資料には、地図や統計、写真など様々あるが、その中でも最も重要な役割を果たしているのが地図である。現代のように地域間の交流の盛んな時代においては、社会的事象を位置や空間的な広がりなどを考慮して地図上で捉えることは効果的であり大切である。また、地域の変容が激しくなっている現代では、新旧の地図を比較し関連付ける学習は、地域の変容の軌跡を捉え、地域の課題や将来像などについて考える上でも大切である。

さらに、情報をまとめる技能に関わっては、上記の読図力とともに、特に地理情報を地図にまとめて主題図を作成する作図力などの地理的技能を、地理学習の全般にわたってしっかり身に付けさせるよう工夫することも大切である。

【参考：中学校学習指導要領解説 社会編 第2章「社会科の目標及び内容」 第2節 1 (2) 内容より抜粋】

なお、「その際、教科用図書『地図』を十分に活用すること」と付言したのは、教科用図書「地図」、すなわち地図帳には一般図や主題図、その他統計や写真などたくさんの地理情報があるが、それらが必ずしも十分に活用されていない状況が見られ、こうした状況を改善し、地理学習がより一層充実することを期したためである。

3 教科書の調査研究

(1) 内容

ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙 1」）

調査研究項目（調査研究の対象）	対象の根拠（目標等）	数値データの単位
a 地図等の種類	地理・目標(1)	個
b 基本図等	地理・目標(1)	個
c 基本図の図法の種類	地理・内容 A、B、C	個
d 資料図の目的別分類（世界）	地理・目標(1)	個
e 資料図の目的別分類（日本）	地理・目標(1)	個
f グラフ・写真・図等の分類	地理・目標(1)	個
g 索引に記載されている地名数（世界）		個
h 索引に記載されている地名数（日本）		個

イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙 2」）

① 調査項目の具体的な内容の対象とした事項

調査研究事項の c、d、e との関連で、次の事項について具体的に調査研究する。

- c 基本図の図法の種類（別紙 2－1）
- d 資料図の目的別分類（世界）（別紙 2－2）
- e 資料図の目的別分類（日本）（別紙 2－3）

<その他>

- * 1 我が国の位置と領土をめぐる問題の扱い（別紙 2－4）
- * 2 北朝鮮による拉致問題の扱い
<調査の結果、* 2 については記載のないことを確認した。>
- * 3 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い（別紙 2－5）
- * 4 オリンピック・パラリンピックの扱い
<調査の結果、* 4 については記載のないことを確認した。>
- * 5 固定的な性別役割意識に関する記述等（別紙 2－6）

② 調査対象事項を設定した理由等

学習指導要領によれば、社会的事象を位置や空間的な広がりなどを考慮して地図上で捉えることや、地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることが重視され、特に地図を十分に活用することが求められている。地図の中でも資料図は、学習の目的に応じて作成され、学習教材としての特色が表現されたものであり、教科用図書「地図」の構成上重要な役割をもつ。したがって、資料図について、その内容を調査・比較することとした。

- ・ 我が国の位置と領土をめぐる問題については、学習指導要領に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。（* 1）
- ・ 東京都教育委員会は、教育目標の基本方針 1 として「人権尊重の精神と社会貢献の精神の育成」を掲げ人権教育を推進してきた観点から、児童・生徒が人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、北朝鮮による拉致問題の扱いについて調査する。（* 2）
- ・ 東京都では、自然災害における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。（* 3）
- ・ 東京都教育委員会教育目標の基本方針 2・3 に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。（* 4）
- ・ 東京都教育委員会の基本方針 1 及び東京都の男女平等参画推進の施策を踏まえ、固定的な性

別役割分担意識の解消や、「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」に気付いて言動等を見直していくなど、男女の平等を重んずる態度を養うことができるよう、その扱いについて調査する。

（＊５）

③ 調査研究の方法

資料図を「地形・気候・国土利用」、「資源・産業・貿易」、「人口・交通」、「生活・文化・歴史」、「その他」の５つに分類し、その項目（主題）名を記述する。

<その他>

- ＊１ 我が国の位置と領土をめぐる問題の扱いについて、北方領土、竹島、尖閣諸島等に関する項目及び記述の概要を調査する。
- ＊２ 北朝鮮による拉致問題について取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- ＊３ 防災や、自然災害時における関係機関の役割等について取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- ＊４ オリンピック・パラリンピックについて取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- ＊５ 固定的な性別役割分担意識に関する記述等を調査する。

（２）構成上の工夫（調査結果は「別紙３」）

以下の観点により、箇条書きで記述する。

- ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫
- イ ユニバーサルデザインの視点
- ウ デジタルコンテンツの扱い
- エ 航空写真や景観写真の活用
- オ 環境問題への配慮

「別紙１」【（１）内容 ア 調査研究の総括表】（中学校 地図）

項目	a 地図等の種類			b 基本図等				c 基本図の図法の種類			d 資料図の目的別分類(世界)						e 資料図の目的別分類(日本)						f グラフ・写真・図等の分類						g 索引に記載されている地名数(世界)	h 索引に記載されている地名数(日本)			
	平面図	鳥瞰図・その他の地図	計	世界全図	日本全図	世界州別図	日本地域別図	計	世界	日本	計	地形・気候・国土利用	資源・産業・貿易	人口・交通	生活・文化・歴史	その他	計	地形・気候・国土利用	資源・産業・貿易	人口・交通	生活・文化・歴史	その他	計	地形・気候・国土利用	資源・産業・貿易	人口・交通	生活・文化・歴史	その他			計		
発行者																																	
東 書	320	5	325	1	1	23	37	62	5	5	10	34	43	15	16	13	121	46	37	30	18	4	135	59	68	37	67	20	251	1,358	2,159		
帝 国	385	51	436	1	0	26	46	73	6	2	8	45	45	20	37	13	160	46	56	26	33	13	174	103	109	17	143	17	389	1,753	2,555		
平均値	352.5	28.0	380.5	1.0	0.5	24.5	41.5	67.5	5.5	3.5	9.0	39.5	44.0	17.5	26.5	13.0	140.5	46.0	46.5	28.0	25.5	8.5	154.5	81.0	88.5	27.0	105.0	18.5	320.0	1,555.5	2,357.0		

表中の「平均値」は小数点以下第２位を四捨五入した。

【地図の数え方等】

- ※ a 「鳥瞰図・その他の地図」は、鳥瞰図は平面図と分類できないものを全て数えた。
- ※ b 「基本図」は、主に地図の中で「縮尺」、「境界」及び「土地の高さの広がり」が示されているものを数えた。
- ※ c 「基本図の図法の種類」は、同一の図法が複数回出ていても一つとして数えた。
- ※ d、e 「資料図の目的別分類」では、一つの資料図に複数の分類項目にまたがる要素がある場合にはその要素ごとに数えるため、一つの資料図を複数回数えた。
- ※ f 「グラフ」は、「輸出・輸入」のように「対」になっているものは一つとして数えた。時間差を設けて「推移」を示しているものも、その組合せを一つとして数えた。
また、複数のグラフが同じ表題で掲載されている場合は、そのひとまとまりを一つとして数えた。
- ※ f 「写真」は、大小を問わず一つずつ数えた。但し、同じ場所の景観の変化を示すものは一つとして数えた。
- ※ f 地図上の「記号」の役割を果たしていると考えられるものは、「図」としては数えない。

c 基本図の図法の種類		
発行者	世界	日本
東 書	正積方位図法 正積円錐図法 エケルト図法 正距方位図法 モルワイデ図法	正角円錐図法 正距円錐図法 多面体図法 UTM図法 正距方位図法
帝 国	平射図法 エケルト図法 正距方位図法 ミラー図法 ランベルト正距方位図法 正距円錐図法	正距円錐図法 ランベルト正角円錐図法

d 資料図の目的別分類 (世界)				
	地形・気候・国土利用	資源・産業・貿易	人口・交通	生活・文化・歴史
世	ヨーロッパ拡大図	中国の農業地域	人口密度	世界の住居の材料
	世界の火山・地震	中国の一人当たりのGDP	東アジアの民族	世界の食文化
界	世界の気候区と海流	鉱工業	ソウル都市圏への集中	世界の宗教
	世界の年降水量と年平均気温	中国の貿易	人口密度	中国の伝統的な食生活
	さまざまな環境問題	農業	人口密度	宗教
	森林の増減率	鉱工業	人口密度	エルサレム市街地
	平均気温の変化	稲作	人口密度	宗教
	アジアの資料 1 鳥瞰図	GDPと貿易	世界の日系人人口	ヨーロッパに居住する移民
	土地利用	農業	人口密度	言語と民族
	気温と降水量 a	鉱工業	オセアニアの移民	食文化
	気温と降水量 b	一人当たりGDPとGDPの内訳	人口密度	中部アメリカからアメリカ合衆国への移民
	東アジアの資料 気温と降水量	貿易	人口増加率	リオデジャネイロに広がるファベラ
	カリマンタン島の土地利用の変化 (1)	鉱工業	老年人口の割合	世界の言語
	カリマンタン島の土地利用の変化 (2)	農業	幼児死亡率	世界の祭り
	ヨーロッパの鳥瞰図	鉱工業	世界の航空路	世界の移民
	土地利用	鉱工業		インターネットの個人利用者の割合
	気温と降水量(1)	モノカルチャー経済		
	気温と降水量(2)	一人当たりの国民総所得		
	土地利用	アメリカ・カナダの農業		
	気温と降水量(1)	北アメリカの工業分布		
	気温と降水量(2)	アメリカ東部の自動車工場		
	砂漠化が進むサヘル	アメリカの大企業		
	土地利用	シリコンバレー		
	気温と降水量(1)	アメリカの貿易		
	気温と降水量(2)	鉱工業		
	北アメリカの鳥瞰図	ブラジルにおける農地の拡大		
	アメリカ合衆国の拡大	鉱工業		
	土地利用	牧畜業		
	気温と降水量(1)	オーストラリアの貿易相手国の変化(1)		
	気温と降水量(2)	オーストラリアの貿易相手国の変化(2)		
	アマゾン川流域の開発と熱帯林伐採	穀物生産		
	オセアニアの資料 土地利用	畜産		
	気温と降水量(1)	林業		
	気温と降水量(2)	漁業		
		農林水産品の輸入		
		世界のエネルギー資源の分布と貿易		
		世界の鉱産資源の分布と貿易		
		世界のエネルギー消費量		
		世界の発電		
		海外にある日本の製造業の企業		
		日本の輸入		
		日本の輸出		
		世界の一人あたりGDPと産業別割合		

d 資料図の目的別分類（世界）					
	地形・気候・国土利用	資源・産業・貿易	人口・交通	生活・文化・歴史	その他
世	ヨーロッパ中心部	農業の分布	人口密度	世界の経済状況	等時帯
	世界の主な環境問題	経済格差と人の移動	人口増加率	ハンガーマップ	北半球・南半球
	大気汚染	おもな鉱山資源	人口密度	特色ある住居と衣装	ヨーロッパ中心の面積が正しい地図
	世界の二酸化炭素の排出量	おもな工業	民族	特色ある料理と食事	東京からの距離と方位が正しい地図
	世界の変動帯と地震	電力	現代の東アジアとのつながり	様々な言語（公用語）	世界の紛争と難民
	動く大地 イ 2億2500万年前	世界中に輸出される中国の製品	各国の宗教と華人の人口	様々な宗教（生活）	ヨーロッパ周辺
	動く大地 ウ 1億8000万年前	農業	南アジアの人口密度	言語	第二次世界大戦中（1941年のアジア）
	動く大地 エ 6500万年前	鉱工業	人口密度	宗教	植民地から独立国へ
	陸半球	東南アジア・南アジアの稲作	砂漠化が進むサヘルと都市への人口集中	おもな伝統料理	国境の変化 ア
	水半球	経済発展と結びつき	人口密度	朝鮮半島とのつながり	国境の変化 イ
界	世界のさまざまな気候	南アジアの農業	人口密度	南アジアの宗教	国境の変化 ウ
	1年間の降水量	南アジアの米と小麦の生産	人口密度	イスラム教徒の多い国	国境の変化 エ
	植生と土地利用	南アジアの鉱工業	人口密度	西アジアの砂漠のくらし	EU加盟国の変化
	アジア州の地域区分	中央アジア・西アジア・北アフリカの産油国	世界の人口と人口密度	砂漠の大都市ドバイ	
	気温と降水量 1月	ペルシヤ湾岸の油田地帯	世界の人口増加率	南アジアと西アジアの労働者の結びつき	
	気温と降水量 7月	モノカルチャー経済	世界の老年人口の割合	アフリカ州をながめてみよう	
	中国とその周りをながめてみよう	鉱工業	世界の航空路と東京からの距離	貧困率と栄養不足の人口	
	気温と降水量	農業地域	おもな都市間の距離と方位イ	言語分布と紛争	
	大気汚染	農業生産額	おもな都市間の距離と方位ウ	携帯電話の普及 a2010年	
	気温と降水量	ドイツの混合農業	おもな都市間の距離と方位エ	携帯電話の普及 b2020年	
	土地利用	鉱工業		ヨーロッパ州をながめてみよう	
	シンガポール	工業生産額		言語	
	スマトラ島（インドネシア）の森林の変化a1985年ごろ	貿易		宗教	
	スマトラ島（インドネシア）の森林の変化b2020年ごろ	農業地域		国際的な観光客の移動	
	エルサレムの旧市街	鉱工業		ローマ中心部	
	植生と土地利用	アメリカ合衆国・カナダの農業の分布		域内の地域格差とEUの予算	
	気温と降水量 a 1月	小麦・とうもろこし・米の栽培地		外国人の移動	
	気温と降水量 b 7月	肉牛とぶたの飼育		さまざまな民族からなる国々	
	植生と土地利用	大規模に行われる農業		宗教	
	気温と降水量 ア 冬	アメリカ合衆国・カナダの鉱工業の分布		民族	
	気温と降水量 イ 夏	州別工業生産額		アメリカ合衆国の成立と移民	
	1月の気温	シェールガス田の分布		さまざまな民族の移住地	
	ニューヨーク	新しい自動車生産拠点のメキシコ		州別貧困率	
	北アメリカ州をながめてみよう	日本とのむすびつき		言語	
	植生と土地利用	アメリカ合衆国生まれの大企業の本社		日本からの移民	
	気温と降水量	シリコンバレーの鳥瞰図		移民の出身地 キ	
	南アメリカ州をながめてみよう	鉱工業		移民の出身地 ク	
	植生と土地利用	ブラジルのさとうきびと大豆の栽培			
	気温と降水量	牛と羊の分布			
	リオデジャネイロ	鉱工業			
	アマゾン（ブラジル）の森林の変化 a	エネルギー資源の分布と移動			
	アマゾン（ブラジル）の森林の変化 b	鉱産資源の分布と移動			
	エルニーニョ現象の発生	日本の工業原料・製品の輸出と輸入			
	オセアニア州をながめてみよう	日本企業の自動車工場の海外進出			
	オセアニア州の植生と土地利用	世界から集まる日本の食料			

e 資料図の目的別分類（日本）					
	地形・気候・国土利用	資源・産業・貿易	人口・交通	生活・文化・歴史	その他
日	九州地方の資料 地形	九州地方の資料 工業・交通	九州地方の資料 人口分布	広島市中心部	原子爆弾投下時の長崎市
	土地利用	九州地方の北部の工業地域	工業・交通	大阪市内	江戸時代（17世紀末ごろ）の大阪
	気温と降水量（1）	中国・四国地方の資料 工業・交通	中国・四国地方の資料 人口分布	神戸市内	1856年ごろの江戸
	気温と降水量（2）	瀬戸内地方の工業地域	工業・交通	奈良市内	旧国名1868年（明治元年）
	九州地方の自然と産業	近畿地方の工業・交通	人口増減率	京都市内	
	中国・四国地方の資料 地形	近畿地方の工業地域	交通網の変化（1）	東山区付近	
	気温と降水量（1）	中部地方の工業・交通	交通網の変化（2）	東京の歴史と治水	
	気温と降水量（2）	中部地方南部の工業地帯	近畿地方の資料 人口分布	東京中心部	
	土地利用	愛知県の自動車工業	工業・交通	江戸時代末期の江戸	
	近畿地方の資料 地形	愛知県、岐阜県の航空産業	人口増減率	現在の東京（2020ごろ）	
本	気温と降水量（1）	諏訪盆地の産業の変化(1)	中部地方の資料 人口分布	日本の中心・霞が関	
	気温と降水量（2）	諏訪盆地の産業の変化(2)	工業・交通	横浜市中心部	
	土地利用	諏訪盆地の産業の変化(3)	関東地方の資料 人口分布	鉄道網と市街地の拡大	
	大阪駅北側の土地利用の変化(1)	中央高地の農業	工業・交通	首都圏外郭放水路	
	大阪駅北側の土地利用の変化(2)	中部地方の観光地	昼夜間人口	祭り	
	京都の地名	甲府盆地の農業の変化(1)	東京周辺の在留外国人の割合	札幌市中心部	
	中部地方の資料 地形	甲府盆地の農業の変化(2)	群馬県大泉町周辺の在留外国人の割合	明治時代の開拓とアイヌ語由来の地名	
	気温と降水量（1）	関東地方の資料 工業・交通	東北地方の資料 人口分布	日本の文化	
	気温と降水量（2）	関東地方の工業地域	工業・交通		
	土地利用	農業分布	北海道地方の資料 人口分布		
	越後平野の土地利用	東北地方の資料 工業・交通	工業・交通		
	関東地方の資料 地形	水産業	日本の人口分布		
	気温と降水量（1）	冷害と銘柄米の生産割合	人口増減率		
	気温と降水量（2）	北海道地方の資料 工業・交通	老年人口の割合		
	土地利用	農業と畜産業	国内での人口の移動		
	地形に応じた土地利用	漁業	人口にしめる在留外国人の割合		
	東北地方の資料 地形	稲作の北限の変化	日本の高速道路の発展と交通量		
	気温と降水量（1）	米の生産量	日本の主な鉄道の旅客輸送		
	気温と降水量（2）	日本の土地利用	日本の主な航空路		
	土地利用	野菜の生産額	東京都との間の移動手段		
	北海道地方の資料 地形	果実の生産量			
	気温と降水量（1）	家畜の飼養頭数			
	気温と降水量（2）	木材の生産量			
	土地利用	水あげ量			
	地形と自然災害	日本の主な発電所			
	北海道で見られるさまざまな気象	再生可能エネルギーを利用した発電所			
	日本の地形の模式図	工業地域の分布			
	日本の地形				
	気候区分				
	気象記録				
	年平均気温	7月の気温			
	年平均降水量	1月の降水量			
	1月の気温	7月の降水量			

e 資料図の目的別分類（日本）					
地形・気候・国土利用		資源・産業・貿易	人口・交通	生活・文化・歴史	その他
日	九州地方の資料 自然	環境のまち北九州市	九州地方の資料 人口分布	沖縄島南部のようす	南西諸島周辺
	降水量 a	九州地方の資料 農業	工業・交通	那覇市中心部	沖縄島
本	降水量 b	工業・交通	中国・四国地方の資料 人口分布	福岡市中心部	長崎市
	中国・四国地方の資料 自然	阿蘇・くじゅうの産業	工業・交通	シラスの分布と畜産	江戸時代の大阪
本	降水量 a	宮崎平野の野菜づくり	中国・四国地方の交通と人口密度の変化 a	瀬戸内海周辺の歴史	日本とロシア・ソ連の国境の変遷ア
	降水量 b	北九州工業地帯の変化 a	中国・四国地方の交通と人口密度の変化 b	広島市中心部	日本とロシア・ソ連の国境の変遷イ
本	鳥取砂丘	北九州工業地帯の変化 b	近畿地方の資料 人口分布	広島市付近にある水害の碑の分布	日本とロシア・ソ連の国境の変遷ウ
	近畿地方の資料 自然	中国・四国地方の資料 農業	工業・交通	八幡浜市のみかん栽培	日本とロシア・ソ連の国境の変遷エ
本	降水量 a	工業・交通	京阪神の昼夜間人口比率	高知平野の野菜づくり	日本の世界遺産と史跡
	降水量 b	水島コンビナート	中部地方の資料 人口分布	近畿地方の歴史・文化・観光	伝統的な町並みの保存
本	琵琶湖・淀川水系の水利利用	近畿地方の資料 農業	工業・交通	神戸市中心部	地域による方言の違い
	琵琶湖の透明度の変化 a	工業・交通	関東地方の資料 人口分布	大阪市中心部	日本の伝統的な料理
本	琵琶湖の透明度の変化 b	阪神工業地帯	工業・交通	奈良市中心部	昔の国名と国境
	尾鷲の林業	中小企業の工場が集まる東大阪市	東北地方の資料 人口分布	斑鳩町付近	
本	本州中央部と五街道	中部地方の資料 農業	工業・交通	明日香村付近	
	富士山噴火時の降灰予想	工業・交通	伝統・文化	京都市中心部	
本	中部地方の資料 自然	中京工業地帯・東海工業地帯	北海道地方の資料 人口分布	京阪神の人口増加率と通勤・通学者数	
	降水量 a	東海の農業	工業・交通	ハケ岳山麓の野菜づくり	
本	降水量 b	北陸と中央高地のおもな観光地と伝統的工芸品	人口密度（市区町村別）	名古屋市の周り	
	越後平野の変遷 a	諏訪湖周辺の工業地帯 a	人口増加率	名古屋市中心部	
本	越後平野の変遷 b	諏訪湖周辺の工業地帯 b	外国人人口の割合	東京都の中心部	
	東京都周辺の地形	諏訪湖周辺の工業地帯 c	老年人口の割合	江戸	
本	関東地方の資料 自然	甲府盆地の果樹栽培 a	日本の航空路	霞が関	
	降水量 a	甲府盆地の果樹栽培 b	日本の鉄道網	東京周辺の人口増加率と通勤・通学者数	
本	降水量 b	関東地方の資料 農業	高速道路網の発達	東京周辺の昼夜間人口比率	
	ヒートアイランド現象の広がり	工業・交通	鉄道の発達による時間距離の変化	東京大都市圏の地価分布	
本	東北地方の資料 自然	関東地方の工業地域		横浜市中心部	
	降水量 a	北関東工業地域の工場の変化 a		新都心	
本	降水量 b	北関東工業地域の工場の変化 b		仙台市中心部	
	東北地方の冷害と米の品種	東京湾臨海部の開発		札幌市中心部	
本	北海道地方の資料 自然	関東地方の野菜生産		アイヌ語地名と開拓の歴史	
	降水量 a	商業施設と物流拠点の分布		自然を生かした観光	
本	降水量 b	東北地方の資料 農業		札幌市の雪への備え	
	釧路湿原	工業・交通			
本	地形の特色	岩木山山麓の果樹栽培			
	地形と世界自然遺産	山形盆地の果樹栽培			
本	国立公園とジオパーク	気仙沼付近の漁業のようす	工業地域の分布		
	日本の気候区分	十勝平野の畑作	日本の公害		
本	1年間の降水量	根釧台地の酪農	自動車工業		
	積雪量	北海道地方の資料 農業	電子工業		
本	1月の気温	工業・交通	日本の水産業		
	8月の気温	主な漁港の水あげ量と養殖	米の生産（稲作）		
本	季節風による天気の違い（冬）	石狩平野の土地改変 a	各地の農業生産		
	季節風による天気の違い（夏）	石狩平野の土地改変 b	野菜の生産		
本	1月の降水量	日本の主な発電所	果実の生産		
	8月の降水量	鉄鋼業	畜産物の生産		

発行者	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他（領土の範囲等）
東 書	・「世界全図」をはじめ、地域別の地図において、外国との境界を記し、北方領土を我が国の国土として示している。（P 1） ・「択捉島（北海道紗那村）日本の領土の最北端は、択捉島にあるとし、第二次世界大戦終結後にソ連が占領し、現在もロシアが不法に占拠しています。」と写真入りで記述している。（P 172） ・「都道府県の区分」において、外国との境界を記し、我が国の国土として示している。（P 173、176）	・「アジア州」「ヨーロッパ州」「日本自然環境」「日本全図」において、竹島と韓国領ウルルン島の間に外国との境界が引かれている。（P 22、P 42、P 132、P 175） ・「中国地方」の地図において、竹島の地形図を記載している。また、「竹島」の表記に「隠岐の島町」と併記している。（P 75） ・「日本の周辺」において、竹島の写真を示し、「日本固有の領土ですが、韓国が不法に占拠しています。日本は韓国に抗議をする一方、外交交渉を続けています。」と記述している。（P 171） ・「都道府県の区分」において、外国との境界を記し、我が国の国土として示している。（P 173、176）	・「アジア州」「日本全図」の地図において、尖閣諸島と台湾や大陸との間に外国との境界が引かれている。（P 22、P 25、P 174） ・「南西諸島」において、「尖閣諸島」の表記に「石垣市」と併記している。（P 67） ・「日本の周辺」において、尖閣諸島の写真を示し、「尖閣諸島は1895（明治28）年に閣議決定で日本の領土に編入して以来日本が実効支配していて、国際社会からも日本の領土であると認められています。」と記述している。（P 171） ・「都道府県の区分」において、外国との境界を記し、我が国の国土として示している。（P 173、176）	・但し書きとして、排他的経済水域の境界線は日本の法令に基づくこと、境界線の一部は関係国と協議中であることを説明している。（P 171） ・日本の周辺の地図において、日本の排他的水域（200海里水域）や、日本の南端、北端、東端、西端について示している。（P 172、176）
帝 国	・「世界の国々」をはじめ、地域別の地図において、外国との境界を記し、北方領土を我が国の国土として示している。（P 1） ・「国後島・択捉島・色丹島・歯舞群島」を、国境線を記し、我が国の領土として示している。（P 28） ・「国後島・択捉島」を、国境線を記し、我が国の領土として示している。（P 35） ・「国後島・択捉島・色丹島・歯舞群島は、日本固有の領土ですが、ロシアが不法に占拠しています。」と写真入りで記述している。（P 82） ・「北海道地方の地図」において、外国との境界を記し、北方領土を我が国の国土として示している。（P 152） ・「都道府県の区分」において、外国との境界で我が国の国土として示している。（P 196など） ・日本の北端が択捉島であるとの記述を写真を入れて提示している。（P 197）	・「竹島」を、国境線を記し、我が国の領土として示している。（P 28） ・「朝鮮半島」を中心とした地図において、竹島を日本領とするよう、外国との境界を引いている。（P 34） ・「竹島」を、国境線を記し、我が国の領土として示している。（P 35） ・「竹島（島根県）日本固有の領土ですが、韓国が不法に占拠しています。」と写真入りで記述されている。（P 81） ・南西諸島周辺の地図において、外国との境界線を記し、我が国の領土として示している（P 85） ・中国地方を中心とした地図の中で、竹島の近くに「島根県」と記載している。（P 95） ・竹島の近くに「島根県」と記載している。（P 196） ・外国との境界を示し、竹島の近くに「島根県」と記載している。（P 198）	・「尖閣諸島」を、国境線を記し、我が国の領土として示している。（P 28） ・「東アジアと日本の交流の歴史」において、尖閣諸島を日本領とするよう、国境線を記し、我が国の領土として示している。（P 36） ・「尖閣諸島（沖縄県）日本の固有領土で、魚釣島は尖閣諸島のなかで最も大きな島です。」と写真入りで記述されている。（P 83） ・尖閣諸島の近くに「沖縄県」と記載している。（P 84） ・「南西諸島周辺の地図」において、外国との境界線を記し、我が国の領土として示している（P 85） ・尖閣諸島の近くに「沖縄県」と記載している。（P 197）	・「領土、領海、領空の範囲」を模式図を使って示している。（P 197） ・「日本の東西南北端」を写真を使って示している。（P 197） ・「日本の領土」の中に排他的経済水域を記して、我が国の領土・領海を示している。（P 198）

発行者	扱い方 (本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東 書	・留意点 (P 1) ・資料図 (P 9) ・資料図 (P 118) ・資料図、写真 (P 118) ・資料図 (P 118) ・資料図 (P 130) ・資料図 (P 135) ・資料図 (P 135) ・図、写真 (P 136) ・資料図 (P 136)	・災害の写真への配慮 ・世界の火山・地震 ・東日本大震災の地震と津波 ・東日本大震災前後の街並みの変化 ・冷害と銘柄米の生産割合 ・地形と自然災害 ・地形と自然災害 ・倉敷市真備地区の洪水・土砂災害のハザードマップ ・自然災害への備え ・平成30年7月豪雨による浸水推定図	・教員、保護者に対して、災害の写真への配慮のお願いを記述している。 ・東北地方太平洋沖地震 (2011年3月11日 M9.0) を明示している ・各地区の震度や津波の高さ、地震の発生場所とそれぞれのマグニチュードを明示している。 ・宮城県南三陸町志津川地区の東日本大震災の前と直後と復興工事後の変化を記載している。 ・東北地方の冷害の分布を掲載している。 ・北海道の過去の大地震の震源地、津波の被害を受けやすい地域、主な火山を明示している。 ・過去の大地震の震源地やマグニチュードを示している。 ・土砂災害特別警戒区域や警戒区域などを色分けし、指定の避難場所とその地点の海拔を記載している。 ・さまざまな自然災害や防災施設の例を図で示し、土砂災害、砂防ダム、浸水した地区の写真を掲載している。 ・推定最大浸水深や堤防が決壊したところなどを掲載している。
帝 国	・鳥瞰図 (P 92) ・鳥瞰図 (P 102) ・鳥瞰図 (P 103) ・平面図 (P 118) ・鳥瞰図 (P 125) ・図 (P 140) ・図 (P 140) ・鳥瞰図 (P 142) ・鳥瞰図 (P 154) ・写真 (P 159) ・図 (P 159) ・鳥瞰図 (P 160) ・図 (P 161) ・図 (P 161) ・図 (P 161)	・普賢岳噴火による被害について ・広島市付近の土砂災害について ・兵庫県南部地震の被害について ・富士山噴火の降灰予想について ・洪水への備えについて ・都市型洪水への備え ・東京都の大災害への備え ・宮古市の津波への備えについて ・札幌市の雪への備え ・熊本地震の被災状況について ・南海トラフ沿いで発生した過去の巨大地震について ・東日本大震災の被害について ・自然災害に対する備えについて ・日本の気象災害 ・ハザードマップ (洪水) ・地形図から読み取る浸水被害	・火砕流の被害を受けた地域と土石流の被害を受けた地域を点線で区切りわかるようにしている。 ・土砂災害で被害にあったおもな地域を示している。 ・震度7を記録した範囲と液状化現象が民られた区域を示している。 ・降灰が堆積する範囲を示している。 ・岐阜県木曽川付近で川の水面より低いところを示している。 ・地下調節池のあるところなどを示している。 ・帰宅支援対象道路、主な防災公園、災害時に地区内にとどまる地区等について記している。 ・震災前から復興の様子を示している。 ・主な融雪層・流雪溝などを示している。 ・熊本地震で倒壊した建物を写真にて提示している。 ・南海トラフ沿いで発生した地震の状況を1600年代から年表形式と地図にて提示している。 ・東日本大震災の被害状況を地図にて示している。 ・模式図にて、様々な自然災害や取組等について提示している。また、各地方の資料図にて、各地域に適した取組を提示している。 ・近年気象災害が発生した主な地域を示している。 ・浸水を想定した区域を色分けして示している。 ・洪水による推定浸水範囲を示している。

発行者	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東 書	・コラム(P8)	・持続可能な開発目標5「ジェンダー平等を実現しよう」	・SDGsについての説明の中で、ジェンダー平等について「女性への差別を撤廃し、政治や経済などのあらゆる分野で、平等に参加できる社会が目指されています」と記載している。
帝 国	①「SDGsの17のゴール」のイラスト提示(P8) ②統計資料の提示(P180)	①持続可能な開発目標5「ジェンダー平等を実現しよう」 ②「持続可能な社会を考える統計」	①イラストの提示 ②「持続可能な社会を考える統計」内で、「男女の格差が小さい国(指数)2021年」を第1位から第5位までを提示。「男女の格差を教育、経済、保健、政治の4分野に分けてランク付けしたジェンダーギャップ指数を示す。0は完全不平等、1は完全平等。日本は0.656で、156か国中120位。」と記している。

「別紙3」【（2）構成上の工夫】（中学校 地図）

項目 発行者	ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫	イ ユニバーサルデザインの視点	ウ デジタルコンテンツの扱い	エ 航空写真や景観写真の活用	オ 環境問題への配慮
東書	・地図帳の基本的な活用法についての解説を設けている。（P 5-7） ・関連する資料を提示しているページを示す「ジャンプ」を掲載している。（P 13など） ・キャラクターによる、地図を深く読み取るためのヒントとなる問いを掲載している。（P 24, 56など） ・歴史的分野や公民的分野の学習内容と関連が深いことを示す資料には「歴」や「公」を示している。（P 13-14など） ・SDGsと関連が深い資料には、世界のさまざまな課題について考える視点を示している。（P 13-14など） ・歴史や地形を視覚的に捉えられるよう、見開き全体を使った資料を掲載している。（P 111-112） ・地形図を読み取るための基礎を身に付ける「地形図の読み取り」のページを設けている。（P 155など）	・ユニバーサルデザインフォントを採用している。 ・すべての生徒の色覚特性に適應するデザインにした り、文字の縁取やグラフの線種で見分けがついたりできるようにしている。	・デジタルマップの解説を掲載している。（P 7） ・デジタルコンテンツ（デジタル地球儀、地図を活用する技能の解説、統計、地図クイズ、世界と日本の自然、白地図、キャラクターによる地図を深く読み取るための問いの解答例など）が、各所の二次元コードから利用できる。（P 13など）	・地域の様子が具体的につかめるように、資料図などの近くに関連した写真を掲載している。（P 13など）	・SDGsを特集するページを設け、環境問題を含む国際社会の課題について示している。（P 8） ・「世界と日本の環境問題」というテーマで、資料図と写真やグラフを用いて具体的に説明している。（P 13-14） ・キャラクターによる、環境に関する問いを掲載している。（P 13-14）
帝国	・地図帳の基本的な見方・使い方について、「地図帳の使い方」で解説している。（P 5-7） ・地図をもとに確認したり深めたりする問いのコーナーである「地図で発見」を各所に設けている。（P 20など） ・資料図のページで扱っているテーマに対して、「主題学習」として、図を読み取る際の視点を示している。（P 19-20など） ・歴史的分野や公民的分野の学習内容と関連が深いことを示す場合には主題名の横に「歴」や「公」を示している。（P 85-86など） ・同縮尺の図が複数掲載され、比較したり重ね合わせたりして考察できるようにしている。（P 31-32など） ・「日本との結びつき」や「環境」についてコーナー化する等、SDGsについて考察できる資料が示されている。（P 32など） ・実際の地形図や読み取り方について、「国土地理院の地形図」で紹介している。（P 195）	・ユニバーサルデザインフォントを採用している。 ・色覚特性に配慮した色づかいとなるような表現や、識別しやすくなるよう、タイトルの縁取りや地紋の工夫がなされている。	・QRコンテンツの活用を促すコーナーを掲載している。（P 4） ・インターネットを活用して学習ができるページには二次元コードを掲載し、資料やクイズ等が閲覧できるようにしている。（P 5など）	・地域の様子が具体的につかめるように、資料図などの近くに関連した写真を掲載している。（P 25など）	・世界の環境問題について、「地図で考える持続可能な社会」というテーマで資料図と写真を用いて具体的に説明している。（P 8-14） ・自然環境への関心を高められるよう「世界自然遺産」等のマークを記載している。 ・「持続可能な社会を考える統計」のコーナーを設けて、近年の環境問題に関する資料を示している。（P 180）